

数学の授業と ICT 機器の活用

Mamoru.itou@nifty.com 2024.07.16

現任校にお世話になって4年目になりますが、3年前、数学の講師が見つからないということで、「それならと」・・・お引きうけさせて頂きましたが・・・(^_^) 数学の授業を担当するのは、定時制高校勤務時と、その後、肢体不自由校に転勤した時期以来だから・・・今から、30年くらい前・・・^^;

1学期の授業もほぼ終わり、連休中に時間があつたので、これまでの事を少しふり返ってみました。

今年で計7名の生徒さんを担当させて頂いています。以下、表にしてみると・・・

	ケース		機能		対応
2022	A	中3 数学	機能的にはほとんどノーマル	→	情報機器は、グラフ提示等で時々使う程度
	B	高1 数学Ⅰ	発語・鉛筆等による筆記は厳しい	→	視線入力装置
	C		弱視	→	情報機器は、弱視などのサポート
2023	D	中1 数学	発語は可能、筆記は厳しい	→	iPad+Win-PC、図形作図ソフト・数学記号利用アプリなどを利用
	E	高3 数学Ⅱ	発語・鉛筆等による筆記は厳しい	→	iPad+ トーキングエイド、図形作図ソフト・数学記号利用アプリなどを利用
2024	F G	中3 数学	発語は明瞭だが、細かい作業は微妙	→	iPad 活用、図形作図ソフト・数学記号利用アプリなどを利用
	B	高3 数学B	発語・鉛筆等による筆記は厳しい	→	視線入力装置
	C		弱視	→	情報機器は、弱視などのサポート

今年担当させて頂いている中3の生徒さん達は、以前、理科の授業は担当させて頂きましたが、数学ははじめて。以前、こんなことを書かせて頂きました。「理科の場合は、ある実験に対してその内容が理解でき予想を立てることが出来れば、その実験結果をもとに、推論を次々に深めていくことが可能になるので、細かく書く作業というのは数学ほどには必要とはならない。でも、数学の場合、上述したような理由により、理科の授業以上に丁寧な書きながらの作業（この作業こそが、ある意味で科学における「実験」という意味を持つ）が必要な場合もある・・・そんな風に思っています。」つまり、音声はコミュニケーションはすごく便利だが、すぐに消えてなくなってしまう。しかし筆記は記録に残るので、強いフィードバックが得られる。

こんな理由から、学期当初は色々試行錯誤しながらゆったりすすめていたのですが、生徒さんのお一人が高校受験を希望・・・ということで、急遽、頂いた年間指導計画に合わせるような形で、ペースをあげたら・・・ちょっと？無理があったかも・・・なーんて、少し？反省してますが、「書くことによって、自分の考えを客観的に表現し、それをフィードバックし検証することは大事」という視点は大事にしたいとも思っています。

とはいえ、「わかる授業」よりも、「たのしい授業」・・・これを目指したいです。